

第14回 ミシェル・オークレール(全2回)

その2 ロマン派音楽



「女ティヴォー」とまで言われたオークレールは1924年生まれのパリジェンヌ。パリ音楽院を首席で卒業。卒業演奏では、かのジャック・ティヴォーが指揮を買って出たという。

1945年(20歳)ジュネーブ国際コンクールで絶対評価第1位。

欧州はもとより米国、ソ連でも絶賛を博すが、39歳頃左手の故障により引退し、パリ音楽院で教鞭を執る。その為録音は少ない。

2005年パリで死す。

今回14回目にして初めて三大ヴァイオリン協奏曲の一つ、メンデルスゾーンのホ短調協奏曲を採り上げます。録音を残していない人もあれば、録音はあってもこの曲の優美さを歌い上げていない演奏もあったからです。逆にブラームスの協奏曲は全員得意としていた事とは対照的です。(LPでお聴きください)

次に若きシューベルト19歳作曲の愛らしいソナチネ3曲より、最も親しまれてきた第1番二長調を採り上げます。当時から「家庭音楽」の十八番とされて来ました。

もう一曲は、シューベルトが遺した唯一のヴァイオリン・ソナタ イ長調を採り上げます。20歳の時の作品ですが、死後発表され、「二重奏」又は「デュオ」と呼ばれている傑作です。第1楽章は映像でご覧いただき、2, 3, 4楽章はLPでお聴きください。

最後にチャイコフスキーの協奏曲二長調を採り上げますが、オークレールが得意としていただけに、この曲のみ録音が二種類あります。古い方彼女32歳の時、クルト・ヴェス指揮ウイーン交響楽団(LP・モノ)でお聴きください。

尚、オークレールのアンコール用小品(CD)も用意します。時間があればお楽しみ下さい。

日時 / 9月27日(日) 13:30~15:45

場所 / 久寺家近隣センター 多目的ホール

発表者 / 霜鳥 晃 シリーズ全18回(予定)

参加自由・入場無料

問い合わせ / 04-7184-3771 佐藤 <http://www.aafc.jp/>

往年の女流

名ヴァイオリニストによる

演奏を聴く